

大会準備委員会企画ワークショップ

子どもの『からだ』を育てる -保育に生かす遊びの実践-

企画者	嶋崎 博嗣 (兵庫教育大学)
"	米谷 光弘 (西南学院大学)
"	馬場 桂一郎 (大阪信愛女学院短期大学)

【ワークショップ主旨】

本ワークショップは、日本保育学会企画シンポジウム「子どもの『からだ』の問題とその対策」と関連・連動させて企画している。今回は、「子どもの『からだ』を育てる-保育に生かす遊びの実践-」と題して、子どもの“からだ”と“こころ”をはぐくむ『触れ合い遊び』を中心に、保育現場の第一線で活躍している指導者が集い、実際に参加者や園児に遊びの指導を展開する。その中で、活動する喜び、みんなで触れ合う喜び、考える喜び、できた・伸びた喜びを体験しながら、“からだ”と“こころ”の動きを体感する。さらに、明日に繋がる具体的な保育指導への「導入」及び「展開方法」を学ぶ機会を提供することをねらいとする。

今回の親子参加による地域交流を目指すワークショップは、日本保育学会として初めての試みである。日本保育学会会員のみならず、保育所や幼稚園の先生方、保護者の方々、子ども達にも拓かれたワークショップを目指し、明日からの生活・保育に生かすことのできる実践的・実践的な企画を創造する。

第1部では、学会会場（神戸親和女子大学）近くの小部東小学校において、『全体会A・B・C』・『分科会（4つの遊びコーナー）』に分れることにより、それぞれのプログラム毎にあそびの実技・実践指導を受けながら、体験学習をしていく。

第2部では、先の「保育に生かすあそびの実践」を踏まえ、「子どもの遊びと指導者の姿勢について」をテーマとして、1) 園児指導の立場から、保育所や幼稚園等の保育現場で子どもの遊び指導をしてきた園長先生、2) 小学校指導の立場から、幼稚園と小学校一貫の遊び指導を取り組んできた小学校の校長先生、3) 指導者養成の立場から保育現場での実践を続けながら、保育士や幼稚園教諭等の保育者養成校で教育と研究に携わってきた大学教授の3つの立場から話題提供をしてもらい、子どもの遊びについての重要性と同時に、保育者を含む指導者の専門性とその姿勢の在り方を中心に『メッセージ・タイム（講話）』を設ける。

第3部では、フロアの参加者から『質疑・応答』を受けた後、最後にそれぞれの指導者からコメントを述べてもらい、本ワークショップをまとめていく予定である。

【ワークショップ概要とタイムテーブル】

- 主催： 日本保育学会 第57回大会実行委員会
- 日時： 2004年（平成16年）5月16日（日）
AM 9時20分～11時30分
- 場所： 神戸市立 小部東小学校体育館
- 対象： 保育学会会員、一般参加者
(保護者同伴の園児・保育所保育士・幼稚園教諭等)
- タイムテーブル：

【総合司会・開会の辞】 米谷 光弘

☆ 第1部【実技・実践指導】 ☆

- 全体会：総合演技 -
- A. オープニング&リズム体操：
山田美紀子と「みんな元気ジム」
- B. パラバルーン遊び&親子遊び：
米谷 光弘・水谷 豊三・越智 正篤・原田 健次
- 分科会：4つの遊びコーナー -
- 赤. “身近な素材”を使った運動遊び
瀬戸口清文と「日本遊育研究所」
- 青. “ボール”を使った運動遊び
鐘ヶ江 淳一・口野 隆史と「日本学校同協会」他
- 白. “フープ”を使った運動遊び
片山 喜章・原田 健次と「ウエルネス」他
- 黄. “マット”を使った運動遊び
喜多村 明・島田 敏起と「トータルフィットネス」他
- 模範演技指導 -
- 幼稚園：喜多村 明 と 鈴蘭台幼稚園園児：
「サーキット遊びの指導」
- 保育所：片山 喜章 と はつと保育園園児：
「仲間づくりの遊び指導」
- 全体会：総合演技 -
- C. エンディング&親子体操：
瀬戸口清文と「日本遊育研究所」

☆ 第2部【メッセージ・タイム（講話）】 ☆

テーマ：「子どもの遊びと指導者の姿勢について」
(話題提供者)

- ・園児指導の立場から： 水谷 豊三
- ・小学校指導の立場から： 高光 正明
- ・指導者養成の立場から： 馬場 桂一郎

☆ 第3部【まとめ】 ☆

- ・参加されたみなさんからの質疑応答
- ・指導者のみなさんから感想と一言

【閉会の辞】 嶋崎 博嗣

【ワークショップでの指導者のプログラム内容】

今回のワークショップの実技・実践指導で紹介した子どもの遊びは、保育所・幼稚園・小学校・児童福祉施設等の保育ならびに教育現場で生まれ育ったものであり、それぞれの指導者は、保育者養成に関わりながら、実際に保育現場において園児達を直接指導している実践研究者である。

特に、故水谷英三先生（元甲南女子大学教授）らを中心に園児の遊びとして開発した『サーキット遊び』・『パラバルーン遊び』・『アヒルホッケー遊び』・『ピタッチ遊び』等は、今回学会開催地の神戸と関係が深いことがあげられ、今回参加している指導者の中には、若き日に、その開発と指導法の確立に貢献してきたメンバーも含まれている。これらの幼児の運動遊びは1970年代に神戸市長田区にあった「ちとせ幼稚園」で生まれ、その後、神戸 YMCA ちとせ幼稚園として須磨区への移転をきっかけに全国に先駆けた幼児の運動遊びモデル幼稚園として、その役割を果たした。その後、関西の園長先生らが中心となり、幼児体育振興会（代表：神戸大学名誉教授故高橋省己先生）を設立し、関西のみならず全国各地や海外にも普及振興してきた経緯がある。

現在では、ウエルネス（代表：片山喜章）、トータルフィットネス（代表：喜多村明）、フィールドオブユウ（代表：越智正篤）等の幼児の運動遊びの指導者組織に枝分かれして、次世代の指導者を育成しながら、神戸では、白川台幼稚園・鈴蘭台幼稚園・須磨浦幼稚園・青谷愛児園・頌栄保育園・はっと保育園など、大阪では、日吉幼稚園・中浜幼稚園・熊野幼稚園・安井幼稚園・箕面自由学園幼稚園・育徳園などにその願いが受け継がれ、保育に生かした運動遊びの指導を確立しながら展開している。

このワークショップの全体会では、ゲスト指導者として、地元関西からは、昔、NHKの『お母さんといっしょ』・『地球はドン』などで活躍したお兄さん約の米田和正が設立した「みんな元気ジム」の幼児のリズム体操の第一人者山田美紀子とそのメンバーらがオープニングにおいて、オリジナルの体操を紹介する。

また、米谷光弘・水野豊三・越智正篤・原田健次がそれぞれの立場から、幼児独自の遊びとして親しまれているパラバルーン遊びと親子体操を中心に、導入段階から展開していく指導法についての実践的研究の成果を発表する。

さらに、関東からは、以前、同じくNHKの体操のお兄さん役であった瀬戸口清文と彼が設立した「日本遊育研究所」のメンバーらが、エンディングの体操を指導する。そして、分科会においても“身近な素材”を使った遊びを紹介する。

他の分科会では、九州からは「日本学校同志会幼児体

育部会」で活躍している鐘ヶ江淳一・口野隆史が“ボール”を使った遊び、また、片山喜章・原田健次と「ウエルネス」のメンバー等が“フープ”や“プレイリング”など、更に、喜多村明・島田敏起と「トータルフィットネス」のメンバー等が“マット”などの遊びを中心に、日頃の保育現場での実践指導の成果を紹介する。

模範演技として、『サーキット遊び』と仲間づくりのための『何も使わない遊び』を中心に、園児を対象にした模範演技を公開する予定である（敬称略）。

※ 当日は、運動の出来る服装（上履持参）での参加が望ましい。

【ワークショップ協力者リスト】

馬場 桂一郎	（大阪信愛女学院短期大学・教授）
原田 健次	（京都文教短期大学）・非常勤講師
鐘ヶ江 淳一	（近畿大学九州短期大学・助教授）
片山 喜章	（神戸親和女子大学）・非常勤講師
喜多村 明	（聖和大学）・非常勤講師
口野 隆史	（精華女子短期大学）・非常勤講師
水谷 豊三	（日吉幼稚園）・園長
越智 正篤	（須磨浦学園）・非常勤講師
瀬戸口清文	（大妻女子大学）・助教授
島田 敏起	（常磐会短期大学）・非常勤講師
嶋崎 博嗣	（兵庫教育大学）・助教授
高光 正明	（六甲山小学校）・校長
山田美紀子	（夙川女学院短期大学）・非常勤講師
米谷 光弘	（西南学院大学）・教授

（ABC順）

【ワークショップ協力者によるポスター掲示】

ワークショップ協力者とそのグループの実践活動の様子や実践的研究による指導の成果をポスター掲示する予定である。

- A. 日本遊育研究所：山田・都築・沢井
- B. 日本学校同志会：口野・鐘ヶ江
- C. ウエルネス：片山・原田
- D. トータルフィットネス：喜多村・島田
- E. みんな元気ジム：米田・山田
- F. フィールドオブユウ：越智
- G. 日吉幼稚園：水谷
- H. はっと保育園：片山
- I. 鈴蘭台幼稚園：喜多村
- J. 頌栄保育園：越智
- K. 須磨浦学園：米谷・越智
- L. 神戸市小学校体育研究会：高光
- M. 世界の子ども遊び：馬場
- N. 少数民族の子ども遊び：米谷
- O. 野外活動での子ども遊び：嶋崎